

令和5年度 大阪府新学力テスト(愛称:小学生すくすくウォッチ)結果について

東大阪市教育委員会 学校教育部 学校教育推進室

大阪府が令和3年度より行っている大阪府新学力テスト(小学校5・6年生対象)の結果について、東大阪市立小学校の結果をお伝えします。(調査目的等の概要はP8に記載)

◇今年度の結果概要

<教科横断型問題「わくわく問題」・教科問題>

- 本市では、「わくわく問題」「教科問題」ともに、平均正答率は大阪府平均にはとどきませんでした。
- 「わくわく問題」では、相手の立場に立って物事を考えつつ、自由な発想で自分の考えを書くことは出来ていましたが、図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに新たな課題について考えをまとめることに課題がありました。
- 国語(5年)では、文中の助詞を正しく使うことは出来ていましたが、故事成語の意味を正しく理解することや日常で使うローマ字を正しく読んだり書いたりすることに課題がありました。
- 算数(5年)では、割り算を使う問題の場面を理解して立式し、商を求めることはできていましたが、図や式を用いて数量の関係どうしを割合で比べることに課題がありました。
- 理科(5・6年)では、体験的に習得した知識は定着していましたが、「植物の成長」や「昆虫の体のつくり」等についての基本的な知識の定着に課題がありました。

【平均正答率(平均正答数)】

	令和4年度		令和5年度	
	東大阪市	大阪府	東大阪市	大阪府
わくわく問題(5・6年)	61.1 (5.5)	64.5 (5.8)	68.2% (6.1)	71.4% (6.4)
国語・5年	73.8 (14.8)	76.8 (15.4)	73.6% (14.7)	78.3% (15.7)
算数・5年	38.3 (2.7)	42.0 (2.9)	33.7% (2.4)	37.5% (2.6)
理科・5年	68.1 (6.1)	72.2 (6.5)	56.4% (5.6)	62.3% (6.2)
理科・6年			70.6% (7.1)	73.1% (7.3)

<児童アンケート>

今年度も、授業中にコンピュータやタブレットを使って、「必要な情報を調べること」「自分の考えを書き込んだり、友だちと意見を交流したりすること」「プレゼンテーション資料等にまとめて発表すること」については大阪府の平均を大きく上回る結果となりました。

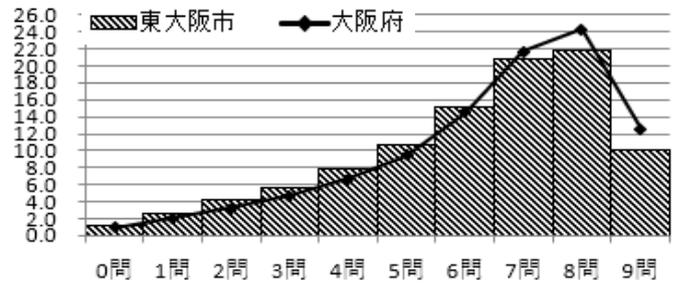
<今後の取組み>

探究心(知的好奇心・ワクワク感等)を持ち続けるための「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、一人一台端末やAIドリルを効果的に活用しながら、教師主導の授業から、子ども主体の授業への転換を引き続き推進していきます。

また、すべての子どもたちが誰一人取り残されない「個別最適な学び」と、子どもたちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実を図りながら、学びの基盤となる言語能力や情報活用能力等の向上をめざしていきます。

【わくわく問題】 小学校5・6年実施

	平均正答数	平均正答率
東大阪市	6.1/9	68.2%
大阪府	6.4/9	71.4%



分類	区分	平均正答率	
		市	府
観点	A 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、正しくとらえる。	77.4	80.0
	B 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに論理的に考える。	53.0	56.9
	C 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに新たな課題を考える。	71.2	75.4
	D 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに自分の考えをまとめ、伝える。	65.4	68.6
	E 興味・関心のある事からについて、意欲的に工夫して相手に伝える。	86.5	89.5

【良かった点】

- ・相手の立場に立って物事を考えつつ、自由な発想で自分の考えを書くこと

【課題】

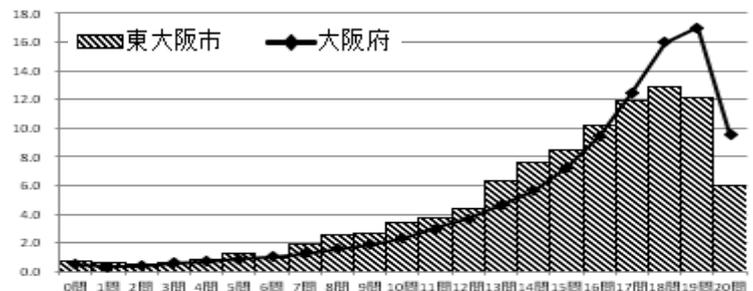
- ・図や文章から読み取り、比較したり分類したりすること
- ・資料の情報を整理して伝えること

【指導改善のポイント】

- ・課題解決にあたっては、意図的に複数のメディア（インターネット、書籍、新聞等）から情報を収集すること
- ・目的意識・相手意識を明確に持たせたプレゼンテーション等の表現する機会を設けること。

【国語】 小学校5年実施

	平均正答数	平均正答率
東大阪市	14.7/20	73.6%
大阪府	15.7/20	78.3%



分類	区分	平均正答率		
		市	府	
学習指導要領等の領域等	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	75.8	80.8
		(2) 情報の扱い方に関する事項	59.3	62.8
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	61.3	64.4
	思考力・判断力・表現力等	書くこと	77.2	82.4

【良かった点】

- ・文中の助詞を正しく使うこと
- ・文を正しく理解し、指示語の内容を捉えること

【課題】

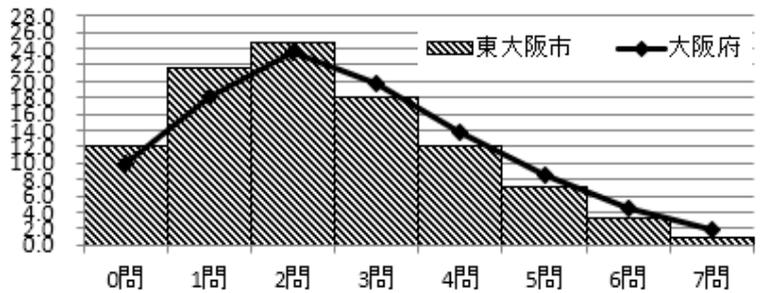
- ・ローマ字の読み書き
- ・故事成語の意味を正しく理解すること

【指導改善のポイント】

- ・タイピング練習を朝の学習時間等において、定期的・計画的に取り組むこと
- ・AIドリルを積極的に活用し、知識を定着させ、日常生活で用いるようにすること

【算数】 小学校5年実施

	平均正答数	平均正答率
東大阪市	2.4/7	33.7%
大阪府	2.6/7	37.5%



分類	区分	平均正答率	
		市	府
等 の 領 域 等 学 習 指 導 要 領	数と計算	35.8	39.5
	図形	35.8	39.9
	測定/変化と関係	22.7	26.7
	データの活用	20.8	24.4

【良かった点】 ・割り算を使う問題の場面を理解して立式し、商を求めること

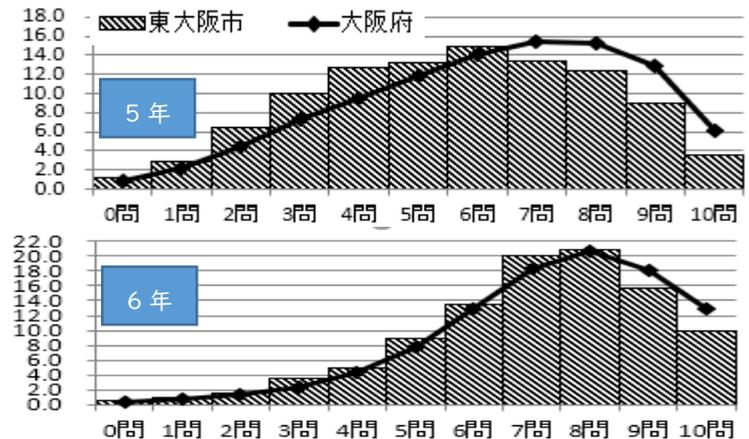
【課題】 ・簡単な場合について、図や式を用いて数量の関係どうしを割合で比べること

【指導改善のポイント】

- ・図や式から数量の関係の特徴を読み取って問題を解決していくことを通して、児童が日常生活の中から、割合の関係にある事柄を見つける探究的な学習をすること

【理科】 小学校5・6年実施

5年生	平均正答数	平均正答率
東大阪市	5.6/10	56.4%
大阪府	6.2/10	62.3%
6年生	平均正答数	平均正答率
東大阪市	7.1/10	70.6%
大阪府	7.3/10	73.1%



分類	区分	平均正答率			
		市 (5年)	府 (5年)	市 (6年)	府 (6年)
等 の 領 域 等 学 習 指 導 要 領	「エネルギー」を柱とする領域	66.0	69.9	69.5	72.8
	「生命」を柱とする領域	50.0	57.2	—	—
	「地球」を柱とする領域	—	—	71.3	73.3

【良かった点】

- ・「エアベッド」等空気の性質を利用する物や「雨がすぐに降り出す雲の様子」等体験的に習得した知識は定着していること(5・6年)

【課題】

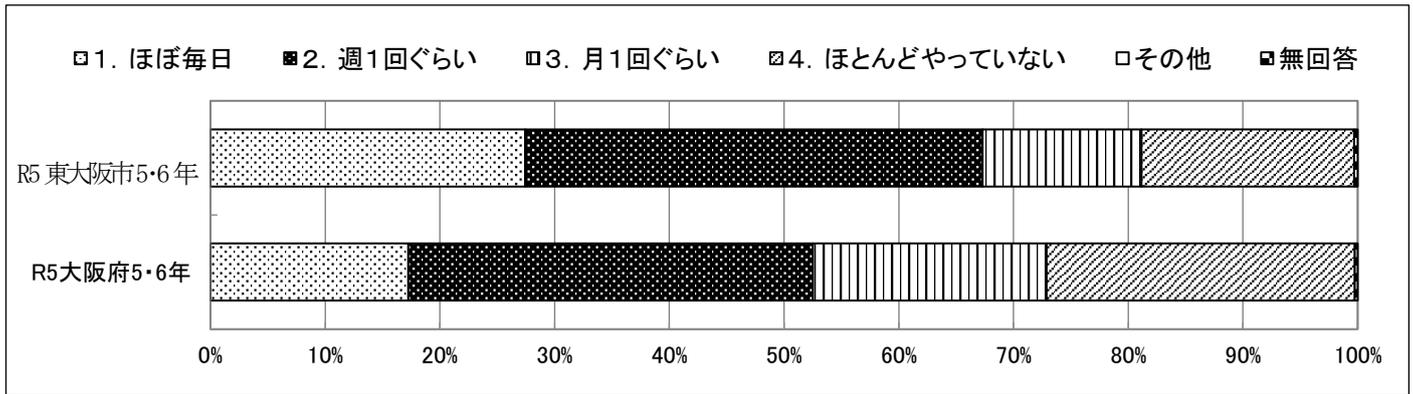
- ・「植物の成長」や「昆虫の体のつくり」について等、学校で当該の単元の学習が終わった後、基礎的な知識を再度確認する機会が少ないこと (5年)
- ・乾電池を直列つなぎしたときと並列つなぎしたときの豆電球の明るさの違いを理解すること (6年)

【指導改善のポイント】

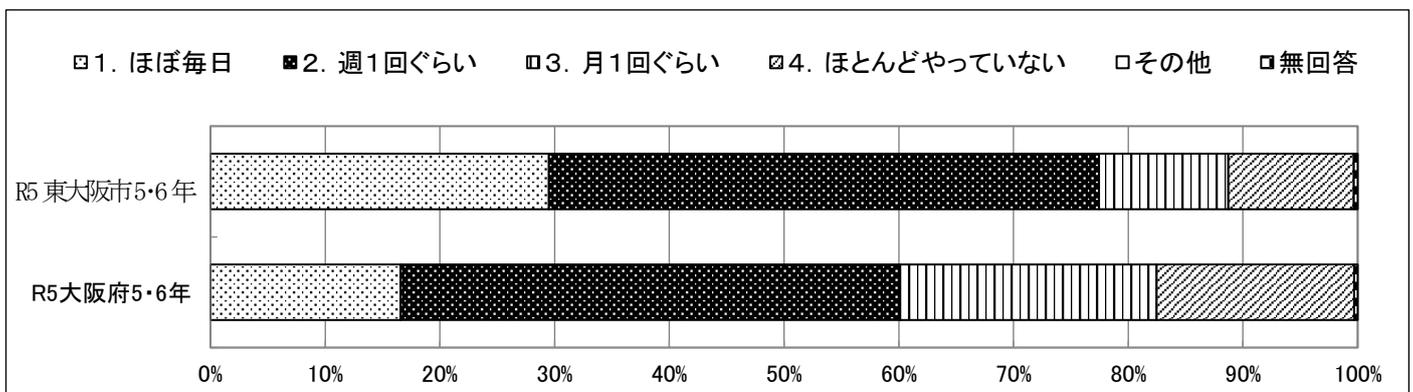
- ・知識をより深く理解できるようにするためには、複数の対象について調べ、調べたことを関連付けることができるようにすること(5・6年)

児童アンケート

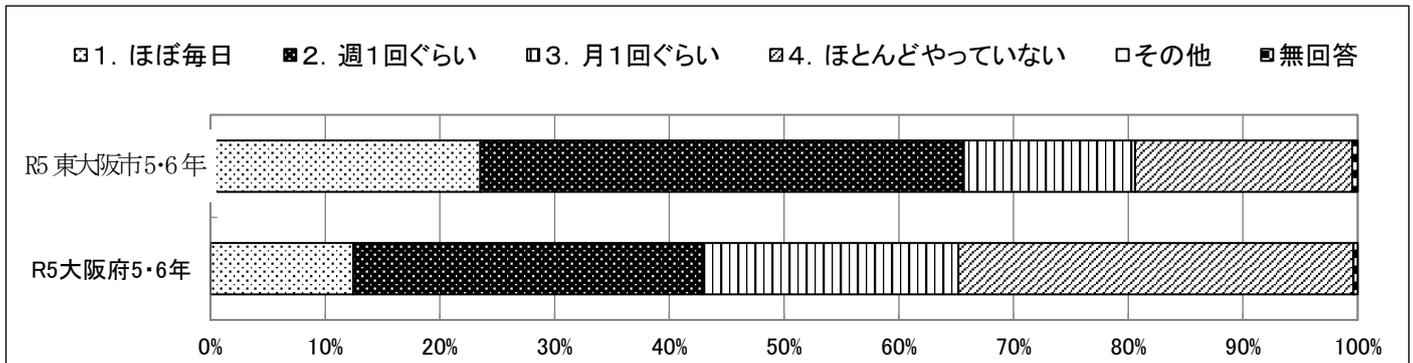
授業で、コンピュータやタブレットを使って、自分にあった問題やドリル等に取り組むことはどれくらいありますか



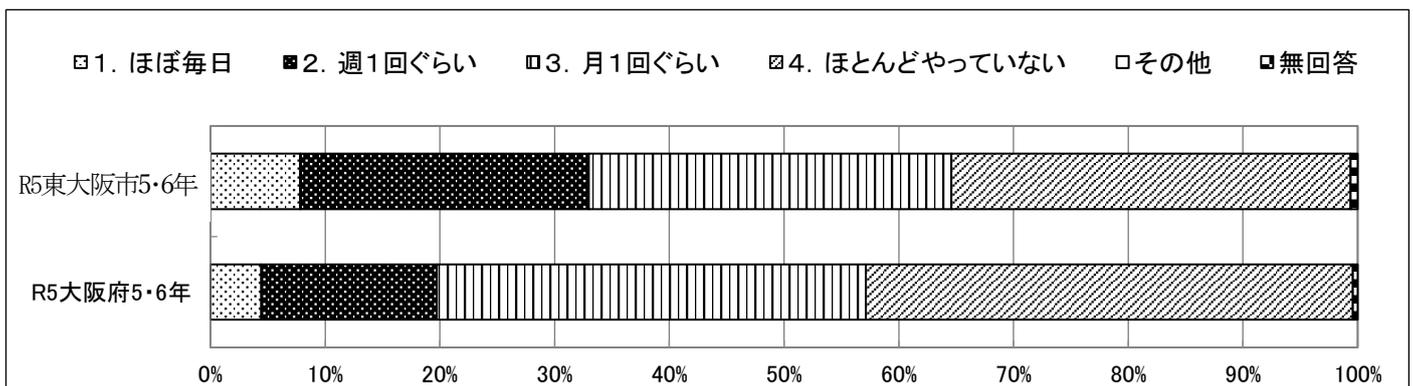
授業で、コンピュータやタブレットを使って、必要な情報を調べることはどれくらいありますか



授業で、コンピュータやタブレットを使って、自分の考えを書きこんだり、友だちと意見を交流したりすることはどれくらいありますか

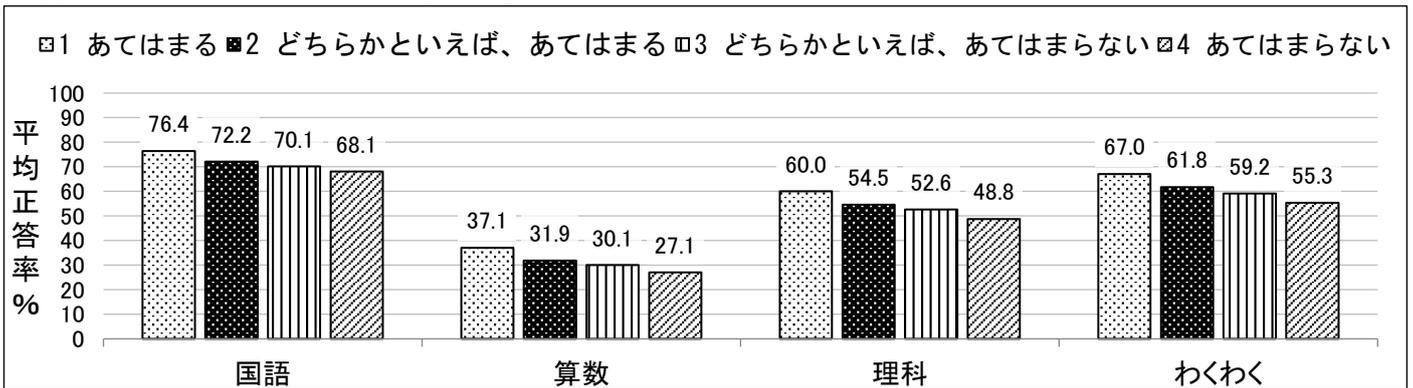


授業で、コンピュータやタブレットを使って、プレゼンテーション資料等にまとめて発表することはどれくらいありますか

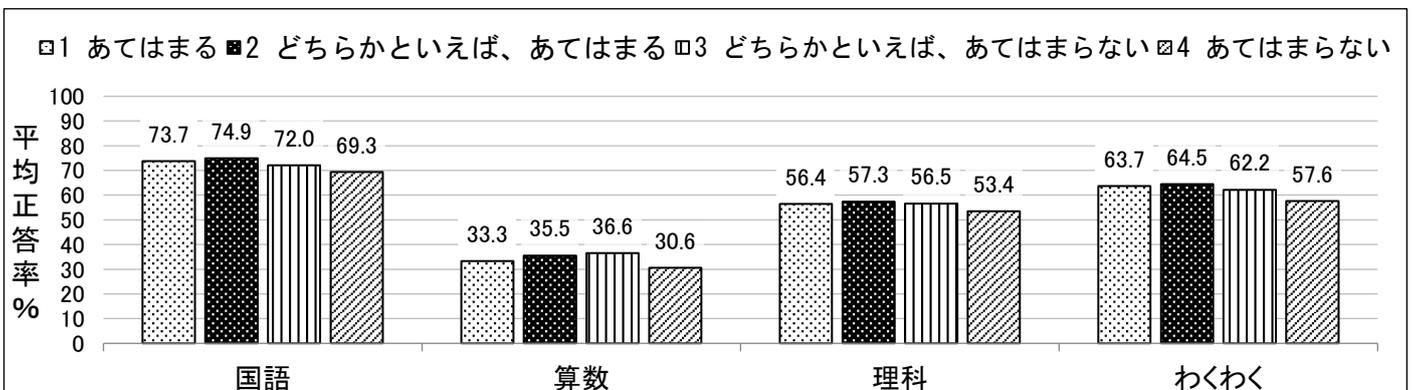


クロス集計 5年児童アンケート×3教科・わくわく問題の平均正答率

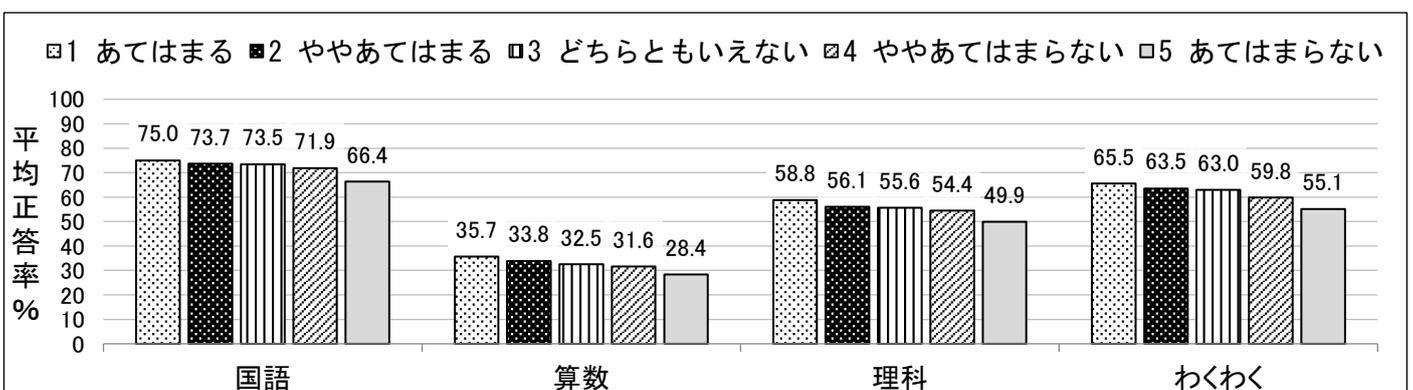
「自分にはよいところがある」と思う



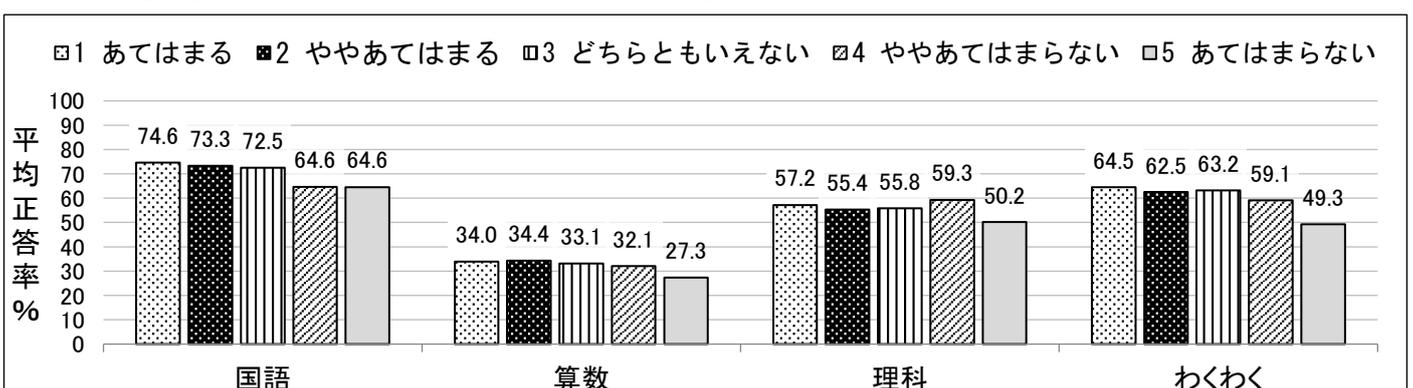
将来の夢や目標を持っている



頑張りやである

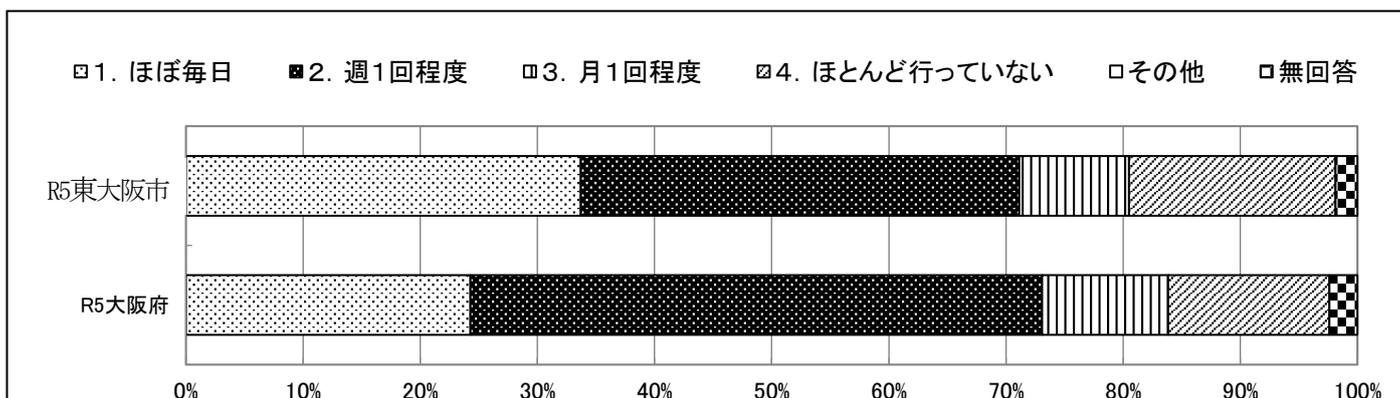


あなたの学級は、友だちのよいところを互いに認め合える

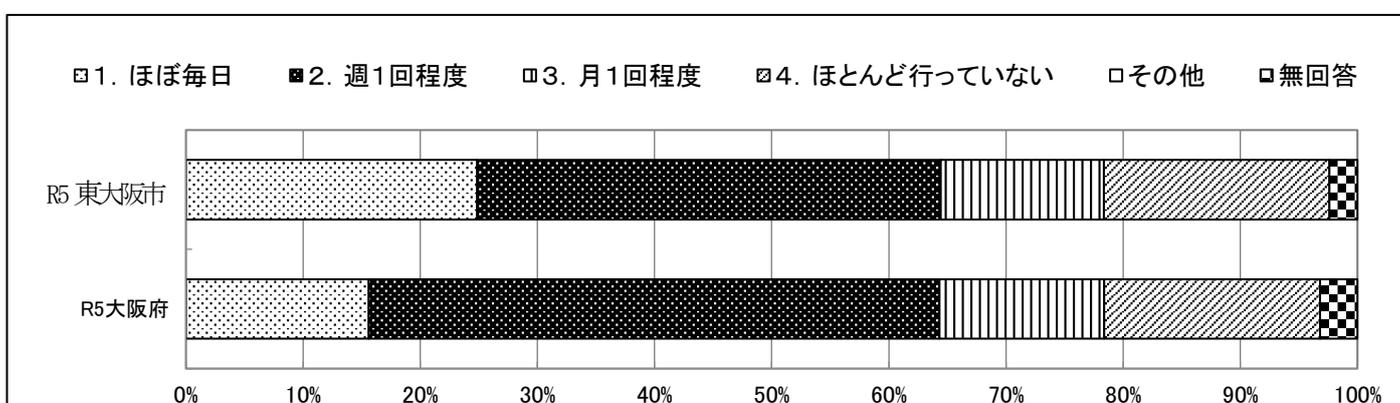


教員アンケート

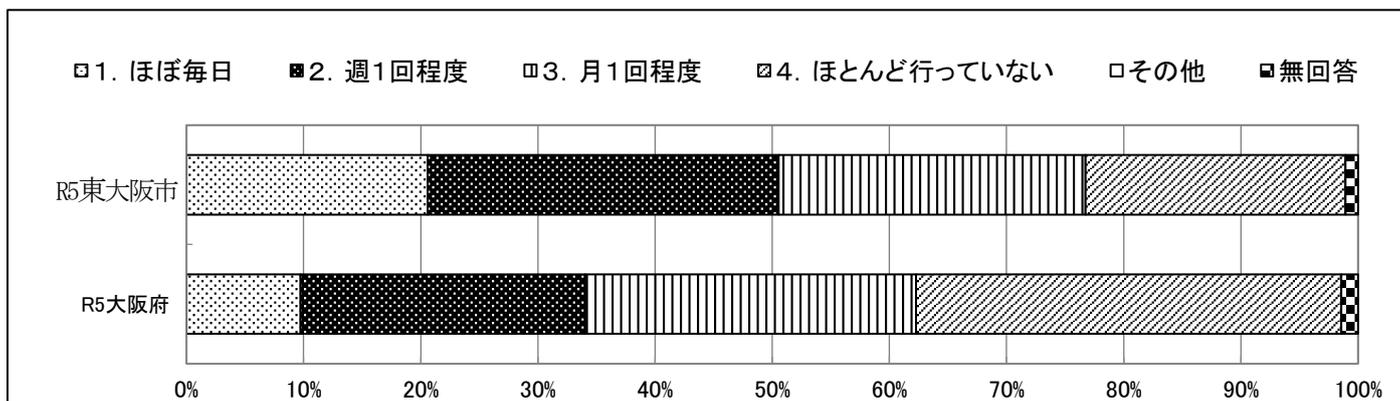
児童が主体的に本を読むような取組みをしていますか



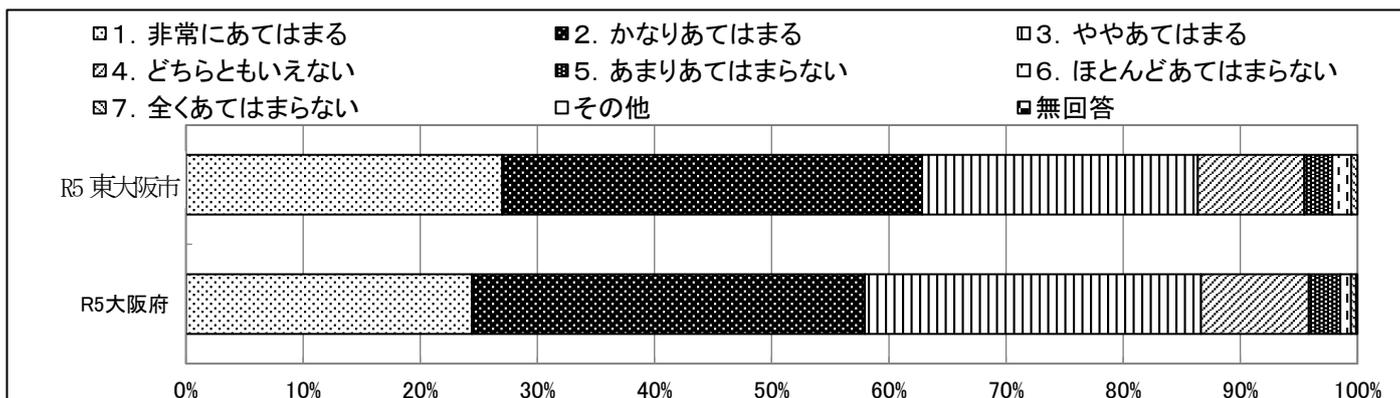
学級での読み聞かせや一斉読書等の取組みをしていますか



コンピュータやタブレットを使って、児童が考えを共有したり発表したりした後に、感想やアドバイス等をコンピュータやタブレットで伝え合う活動をしていますか



職員室には前向きな雰囲気がある



児童アンケートより

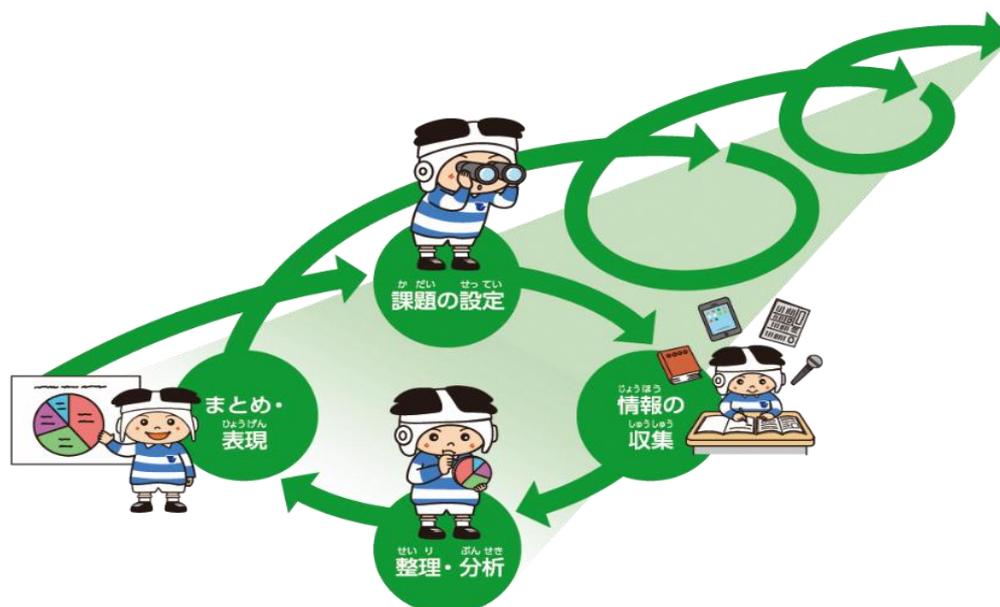
- 授業中に、コンピューターやタブレットを使うことに係る項目は、昨年度に引き続き、大阪府の平均を大幅に上回っています。この結果の要因としては、本市は令和3年度の夏休みまでに1人1台端末を家庭に持ち帰ることを全校が行い、学校だけでなく、家庭でも子どもたちは活用する機会があったことや、各校においてICTを活用した授業改善や業務改善に向けた研究や協議を行ったり、市教育委員会が各校の好事例を収集し、他校とも共有したりしたことが考えられます。

クロス集計 5年児童アンケート×3教科・わくわく問題の平均正答率より

- 全体的にアンケートに肯定的回答をしている児童は、3教科及びわくわく問題の正答率が高い傾向がみられます。日常の事象や社会の事象について、教科等で学んだ内容を利用して問題を解決することで、当該教科等のよさを実感したり、算数を生活や学習に生かしたりすることにつながることや、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促すことも大切です。

教員アンケートより

- 「児童が主体的に本を読むような取組みをしていますか」や「学級での読み聞かせや一斉読書等の取組みをしていますか」の強い肯定的回答率は、大阪府の平均より上回っています。また、「コンピューターやタブレットを使って、児童が考えを共有したり発表したりした後に、感想やアドバイス等をコンピューターやタブレットで伝え合う活動をしていますか」の肯定的回答率は、大阪府の平均より大幅に上回っています。このことは、本市の教員は読書活用も大切にしつつ、1人1台端末の活用も進めていることの現れであると考えます。その一因として、「職員室には前向きな雰囲気がある」ことが影響していることがうかがえます。



令和5年度 大阪府新学力テスト調査概要

目的 子どもたち一人ひとりが、学びの基盤となる言語能力や読解力、情報活用能力等を向上させ、これからの予測困難な社会を生き抜く力を着実につける。

実施日 令和5年4月17日（月）～4月25日（火）※実施日は各学校が決定する。

実施児童数 （東大阪市）5年生：3,418名 / 6年生：3,401名 / 計6,819名

内容 5年生：国語・算数・理科・わくわく問題（教科横断型問題）・アンケート
6年生：わくわく問題（教科横断型問題）・アンケート

《わくわく問題（教科横断型問題）について》（5、6年生共通問題：40分）

- 特定の教科の枠にとらわれず、複数の文章や資料から情報を読み取ったり、問いに対して判断の根拠や理由を明確にして自身の考えを表現したりする力を問う問題等日常の活動や現代的な諸課題（SDGs・プログラミング的思考）等をテーマとして、文章やグラフ等の様々な資料を題材に、資料を読み取ったり、自分の考えを表現する力を問う問題
- 答えが一つでない問いもある

《各教科（国語・算数・理科）について》（各20分）

- 4年生までの学習内容から出題
- 当該学年までに定着すべき学習内容で、基礎的な知識及び技能とともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を問う問題等
- 言語能力・読解力の基盤となる基礎的な言葉等の理解や文章に書かれている意味を正確に捉える力（リーディングスキル）等

《アンケートについて》（20分）

- 児童自身の未来に向かう力（目標に向かって頑張る力、気持ちをコントロールする力、人と関わる力）、次の学びや生活にいかす力、好奇心等に関する内容や、学習状況、学級や授業等に関する意識等（タブレット端末を活用し、オンラインによる回答方式にて実施）

《問題について》

- 大阪府のホームページ上にウェブアップされています。

<https://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/sukusuku/index.html>

